政策 1　スポーツ・観光を通じて魅力を発信するまち

施策 1



スポーツによるまちづくりを推進する

前期基本計画での取組状況

スポーツの機会を拡充させるため、スポーツ関連団体と協力して地域のトップチームの活動などを支援しました。また、ラグビーワールドカップ 2019™ の地元開催を契機として地域の一体感が高まり、スポーツを身近に感じられるまちづくりが実現し、ボランティアをはじめとする市民の温かいおもてなしや観客輸送に関するノウハウなど、多くのレガシーが継承されました。

大会後の令和３（2021）年には、埼玉パナソニックワイルドナイツが本市に本拠地を移転し、地元開催の公式戦が増えました。市内にプロスポーツチームの活動拠点があることは、市民にとって高いレベルの技術を実際に見て、体感できる機会が増えるとともに、チームの存在が身近なものとなったほか、市外からの観戦者も増え、スポーツを応援する機運が醸成され、交流人口の増加や地域の活性化が図られました。

市民一人一人が自分にふさわしいスタイルでスポーツに親しむ環境の整備や、各種教室、講習会等の提供により「実践するスポーツ」の拡充に努めた結果、この５年間で、スポーツ活動を「実践」している市民の割合が、約６ポイント上昇するなどの効果が生まれました。

さらに、熊谷さくら運動公園の改修でスポーツ環境が充実し、スポーツによるまちづくりが前進しました。

現状

本市では、「実践」「応援」「協力」を合い言葉とする熊谷市スポーツ熱中都市宣言に基づき、誰もが元気に生き生きと生活できるまちづくりを目指しています。

「実践」面では、各スポーツ関連協会が実施する公式戦などの支援や情報発信と併せ、熊谷スポーツコミッションなどと連携して全国規模の大規模大会の誘致を行うなど、国内外に「ラグビーのまち熊谷」のイメージアップを図る取組や、市民一丸となったラグビータウン熊谷のまちづくりを推進するため、スローガンである「スクマム！クマガヤ」を活用した取組の拡大を進めています。さらには、マラソン大会や駅伝大会を開催し、スポーツを「する」機会の創出を図っています。

「応援」面では、スポーツコミッションによる大規模スポーツ大会の誘致や各種プロスポーツの支援を通して、「みる」機会の創出を図るとともに、スポーツ協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会等のスポーツ団体の活動を支援しています。

「協力」面では、熊谷市スポーツボランティアバンクの設置により、「ささえる」機会の創出を図っています。埼玉パナソニックワイルドナイツの本拠地移転に伴い、ジャパ

ンラグビーリーグワンのホストゲームの運営支援などを行うとともに、チームが地域貢献活動として開催する健康教室などの支援も行っています。

このほか、アルカス熊谷や埼玉武蔵ヒートベアーズ、ちふれ AS エルフェン埼玉が本市をホームタウンとし、「スポーツのまち」としてますます認知度が高まるなど、スポーツによるまちづくりを進めています。

課題

市民がスポーツに親しむ機会を増やして地域の活力を生み出すため、生涯スポーツの振興を図るとともに、観光·交流人口の拡大を図る必要があります。

そして、スポーツ活動を通じて市民の生きがいづくりや健康・体力づくりを支援するために、安心・安全に利用できるスポーツ施設等の整備を進め、いつでも、どこでも、誰もが様々なスポーツ活動に親しめる環境をつくる必要があります。

また、パブリックビューイング等により、プロスポーツなどを身近で観戦できる環境を整備していく必要があります。

このほか、ラグビー・野球・サッカー等様々なプロスポーツチームのホームタウンである優位性を十分に生かし、これらのチームと連携・協力して、スポーツによる地域の活性化を更に推進していく必要があります。

基本方針

スポーツ熱中都市宣言の理念のもと、市民、関係団体、事業者、行政などの連携を図るとともに、「実践」、「応援」、「協力」というスポーツへの多様な関わり方を通して、生涯スポーツの振興を図ります。

これと併せて、市民のスポーツに対する関心が高まり、国内外で「ラグビータウン熊谷」の注目度が増している機運を生かし、ソフト・ハードの両面からスポーツ環境の充実と本市への来訪者の増加を図り、スポーツによる活力あるまちづくりを目指します。

施策の目標

成　果　指　標	前期基本計画策定時の現状値	前期めざそう値（令和５年３月）	現状値〔基準値〕	後期めざそう値（前期基本計画でのめざそう値 10 年後）
スポーツ活動を「実践」している市民の割合	34.1%	65.0%	40.6%（令和４年８月）	65.0%（65.0%）
総合型地域スポーツクラブの数	－	－	2（令和４年 11 月）	3

施策の体系

スポーツによるまちづくりを推進する
- 1　生涯にわたるスポーツ活動を推進する
- 2　スポーツ環境の充実を図る
- 3　運動・スポーツの習慣化を促進する

単位施策１ 生涯にわたるスポーツ活動を推進する

単位施策の概要

埼玉パナソニックワイルドナイツをはじめとする地域のトップチームや本市ゆかりの選手を応援し、地域の一体感の醸成につなげるとともに、市内で開催されるラグビーリーグワンなどの国内トップチームの試合を契機とした取組により、スポーツを一層身近なものとします。

誰もが自分にふさわしいスタイルでスポーツに関わり、体力の向上、健康づくり、仲間づくりにつながるよう、関連団体等と連携し、スポーツに親しむ機会の充実を図ります。

また、本市をホームタウンとしているプロスポーツチーム等を応援する風土づくりを進め、地域の一体感の醸成につなげます。

主な取組

・大規模大会の誘致及び支援
・「スクマム！クマガヤ」を活用した、民間事業者と連携したプロモーション活動の推進
・埼玉パナソニックワイルドナイツのホストゲームなどへの運営支援
・埼玉パナソニックワイルドナイツをはじめとする、プロスポーツチーム等と連携したスポーツ振興
・スポーツ団体への支援
・指定管理者や民間事業者等と連携した運動プログラムの実施

単位施策２ スポーツ環境の充実を図る

単位施策の概要

市民体育館をはじめとするスポーツ施設の改修や、地域の状況に併せた施設の再整備等を進めるとともに、民間事業者等と連携し、スポーツを取り巻く環境整備を推進します。

また、デジタル技術を活用した新しいスポーツの機会やビジネスモデルの創出を推進します。

主な取組

・スポーツ施設等の整備・充実
・新市民体育館を含む荒川公園周辺再整備の推進
・デジタル技術の活用等によるビジネスモデルを創出できる人材の育成・拡大

単位施策３　運動・スポーツの習慣化を促進する

単位施策の概要

健康増進のため、誰もがそれぞれのライフスタイルに応じて運動･スポーツを楽しみ、習慣として定着するよう、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等※スポーツ団体の育成、誰もが気軽に取り組める環境づくりに努めます。

また、事業者と協力し、仕事や家事が中心となる働く世代・子育て世代の運動習慣の定着につながるスポーツの情報や魅力を発信します。

主な取組

- 子どもや若者を対象とするスポーツ団体や指導者等の育成
- 誰もがスポーツを実施しやすい環境の整備
- 働く世代、子育て世代の運動習慣定着に向けた事業者等との協力
- スポーツの機会提供及び魅力に関する情報発信



〔熊谷さくらマラソン〕

スクスク!クマガヤ

© 熊谷市

※総合型地域スポーツクラブ　日本における生涯スポーツ社会の実現を掲げ、1995 年より文部科学省が実施するスポーツ振興施策の一つ。幅広い世代の人々が各自の興味関心･競技レベルに合わせ､様々なスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブのこと。

施策 2

スポーツツーリズムを推進する

前期基本計画での取組状況

ラグビーワールドカップ 2019™ の開催や各種スポーツイベントの開催・運営で構築されたネットワークを地域活力の向上や地域経済の活性化へつなげるため、令和２（2020）年４月１日から熊谷スポーツコミッションを本格稼働させ、これまでに、関東規模の大会を 12 大会、全国規模の大会を４大会誘致し、大会を支援することでスポーツを通じた交流人口の拡大を図り、活力ある地域づくりに取り組みました。

現状

本市には、ラグビーワールドカップ 2019™ の開催会場の一つとなった「県営熊谷スポーツ文化公園」を始め、「熊谷さくら運動公園」や熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」、熊谷駅からも近く利便性が良い「市民体育館」など、スポーツ大会やスポーツ合宿等の多様なニーズに対応できる施設が整っています。

さらに、プロスポーツチームである埼玉パナソニックワイルドナイツ、アルカス熊谷、埼玉武蔵ヒートベアーズ、ちふれＡＳエルフェン埼玉等が本市をホームタウンとし、活動しています。

このようなスポーツ資源により、様々なスポーツイベントを通して、年間 100 万人以上が本市を訪れています。

課題

スポーツ関係の来訪者に対し、市域内での消費につながる情報を発信することで、会場のみならず市街地や市内の観光施設等にも足を運ぶ仕組みを構築し、滞留時間の延長による消費の拡大、商業の活性化へとつなげていくことが必要です。また、スポーツイベント開催後もＳＮＳの活用などにより、継続的に情報を発信することで、リピーターとなる仕組みづくりを進めることが必要です。

基本方針

スポーツは、祭り・イベント・自然・歴史などと同様に本市が誇る観光資源であり、熊谷スポーツコミッションを核として、熊谷におけるスポーツ活動の魅力を更に高めることにより、交流人口や関係人口の拡大を図ります。

さらに、スポーツ大会やイベントの開催・運営で構築されたネットワークを地域活力の向上や地域経済の活性化へつなげます。

施策の目標

成果指標	前期基本計画策定時の現状値	前期めざそう値（令和５年３月）	現状値〔基準値〕	後期めざそう値（前期基本計画でのめざそう値 10 年後）
観光協会、民間団体・企業、市民等が支援する大規模大会の数	6	8	10（令和４年度）	10（10）

施策の体系

スポーツツーリズムを推進する
- 1　熊谷スポーツコミッションを推進する
- 2　スポーツと観光の融合によるスポーツツーリズムを推進する

単位施策１　熊谷スポーツコミッションを推進する

単位施策の概要

大規模スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致等により、スポーツを通じた交流の促進を図り、スポーツイベントで来訪する「交流人口」に加え、開催を通じてつながりができた「関係人口」を地域経済の活性化につなげます。

主な取組

・大規模大会の誘致
・多様なスポーツイベントの開催（アーバンスポーツ・ｅスポーツなど）

単位施策２　スポーツと観光の融合によるスポーツツーリズムを推進する

単位施策の概要

熊谷スポーツコミッションを核として、行政、（一社）熊谷市観光協会、民間事業者、スポーツ団体等との連携により、スポーツを目的とする来訪者に対し、市内回遊を促すとともに、新たな観光資源の発掘・創出を含め、スポーツを起点とした観光振興を図ります。

主な取組

・（一社）熊谷市観光協会、民間事業者等との連携による、来訪者へのスポーツ大会や観光情報等の提供
・新たなスポーツ観光資源の発掘・創出



〔コミッション誘致大会〕



〔熊谷めぬま駅伝〕

施策 3

観光を推進する

前期基本計画での取組状況

「熊谷さくら祭」、「熊谷うちわ祭」、「熊谷花火大会」といった本市を代表するイベントや、地域伝統行事の運営を支援するとともに、国宝「歓喜院聖天堂」をはじめとする地域資源の情報発信に努めた結果、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元（2019）年の観光入込客数は、460 万 8 千人に上りました。

また、平成 29（2017）年から令和元（2019）年までの 3 年間開催した「全国ご当地うどんサミット」では「熊谷うどん」を広くＰＲし、名物かき氷「雪くま」とともに本市物産の知名度の向上が図れました。

さらに、本市来訪者への観光情報、サービス提供を行うため、市街地のＷｉ－Ｆｉ環境を整備するとともに、（一社）熊谷市観光協会等と連携し、情報提供体制やサービスメニューの充実に努め、来訪者の利便性が向上しました。

現状

本市では、「熊谷さくら祭」、「熊谷うちわ祭」、「熊谷花火大会」などの歴史と伝統を誇るイベントの開催が集客とまちの活性化につながっています。

また、通年での集客が見込める国宝「歓喜院聖天堂」など妻沼聖天山周辺においては、アニメ映画「ブルーサーマル」の舞台となった妻沼グライダー滑空場への来訪者との相乗効果もあり、地元商店街の活性化や市民ボランティアの活躍等、受入体制の充実が見られます。

令和 2（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止や規模縮小となっていますが、「短時間･ステイホーム」での花火大会の開催や、スクマムグッズをはじめとしたオリジナル商品の作成・販売など、アフターコロナを見据えた取組も行っています。

名物かき氷として定着した「雪くま」では、更なる知名度の向上のため、デジタルスタンプラリーなどＳＮＳを活用した広報を行っています。また、本州でも有数の生産量を誇る小麦を使った「熊谷うどん」や「フライ」、文化庁から 100 年フードに認定された「熊谷銘菓・五家宝」などの本市物産のブランド化に向けて取組を進めています。

課題

本市の知名度向上や交流人口の拡大につなげるため、（一社）熊谷市観光協会をはじめとする関連団体、観光関連事業者や民間事業者等と連携し、シティプロモーションの更なる充実など、柔軟で機敏な観光施策を推進する必要があります。

また、県北部の交通の要衝である本市の地理的優位性を生かし、周辺観光地へ展開する拠点としての機能を整備する必要があります。

基本方針

本市が有するスポーツ・祭り・イベント・食・物産・文化施設・自然・農業等多くの観光資源について、各資源のブランド力の強化と相互連携を促進するとともに、シティプロモーションをはじめとした情報発信により、観光集客力の強化を図ります。

また、道の駅等新たな観光拠点の整備を進めることで、交流人口や関係人口の拡大を図り、観光産業に携わる人材の確保と育成を進めることにより、受入体制の整備・充実を推進します。

施策の目標

成　果　指　標	前期基本計画策定時の現状値	前期めざそう値（令和５年３月）	現状値〔基準値〕	後期めざそう値（前期基本計画でのめざそう値10年後）
観光入込客数	3,932千人	4,398千人	1,579千人（令和３年12月）	4,548千人（4,548千人）

施策の体系

観光を推進する

1　おもてなし・受入体制を整備・充実させる

2　多様な主体による観光コンテンツの開発と強化を図る

3　観光を進める組織や人材の確保と育成を図る



〔熊谷うどん〕



〔フライ〕

単位施策１ おもてなし・受入体制を整備・充実させる

単位施策の概要

（一社）熊谷市観光協会や関係団体等と連携し、本市の観光の核となる伝統行事（熊谷うちわ祭等）やイベント（熊谷花火大会等）、スポーツ観戦等への支援による集客力の強化と、地域の一体感・郷土愛の醸成を図ります。

主な取組

・「まつりのまち熊谷」への支援によるにぎわい観光の強化
・広域的な情報発信の強化
・通年型観光都市づくりの推進



〔熊谷うちわ祭（市指定無形民俗文化財「熊谷八坂神社祭礼行事」）〕



〔熊谷花火大会〕



〔熊谷桜堤〕



〔国宝「歓喜院聖天堂」〕

単位施策２　多様な主体による観光コンテンツの開発と強化を図る

単位施策の概要

本市の食ブランドの強化とＰＲを図るとともに、新たな物産品等の開発を促進します。

また、観光関連事業者だけでなく、農業、商業、歴史、自然等に関わる各主体によるアクティビティの検討とコンテンツ化を支援します。

主な取組

・食ブランドの強化支援とＰＲの実施
・新たな土産品やブランド品の開発支援
・観光コンテンツづくりへの支援の強化



〔名物かき氷・雪くま新作発表会〕



〔熊谷銘菓・五家宝〕



〔妻沼のいなり寿司〕







〔名物かき氷・雪くま〕

単位施策３　観光を進める組織や人材の確保と育成を図る

単位施策の概要

地域への誇りと愛着を醸成するため、観光地域づくりを進めるとともに、観光を経済につなげるための仕組みの整備を推進します。

また、観光を推進する人材の確保と育成により、本市が持つ観光資源の付加価値を高める取組を進めます。

主な取組

・地域おこし協力隊の導入の検討
・観光地域づくり法人（ＤＭＯ）導入の検討